

第4回教育委員会協議会

〔北部地域・中部地域②：大豊町、本山町、土佐町、大川村、高知市、いの町、土佐市〕

次第

1 開催日時 平成29年12月4日（月） 18:00～20:00

2 場 所 高知共済会館 3階「桜」

3 内 容
17:50～ 受 付

18:00～ 開 会

議 題

(1) 県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の策定について

(2) 北部地域・中部地域②の県立高等学校の現状、今後の状況について

(3) 地域からの意見聴取

ア 本山町・土佐町

イ いの町

ウ 土佐市

(4) 会場からの意見聴取

閉 会

県立高等学校再編振興計画 後期実施計画(H31～H35年度)策定スケジュール

平成29年度						平成30年度																	
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
臨時教育委員会	9月議会報告	12月議会	2月議会報告	入試出願・検査	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
								定例教育委員会		6月議会報告			定例教育委員会	9月議会報告		12月議会報告	定例教育委員会	入試出願・検査	2月議会				
策定スケジュールの協議・決定						教育委員会協議会 (公開) 目的: 後期実施計画の「中間とりまとめ(たたき台)」策定に当たり、広く県民の意見を聴く。 会議: ○1月1、2回程度開催 ○1回目は、県立中学校・高等学校の現状等に関する会議を開催 ○2回目以降は、地域別に各域内の学校についての再編振興に関する意見を聴く会議を開催 ○地域別会議後は、意見聴取の内容を踏まえながら「中間とりまとめ(案)」を作成する会議を開催 ※参考(地域) 東部、中部、北部、高吾、幡多						教育委員会協議会 (公開) 目的: 「最終とりまとめ(パブコメ案)」策定に当たり、大きな影響が予想される学校について関係者等から意見を聴く。 会議: ○1月1、2回程度開催(状況に応じて追加開催あり) ○大きな影響が予想される学校の関係者等にも参加していただいで会議を開催						「最終とりまとめ(パブコメ案)」決定					
実施計画策定のスケジュールと内容						「中間とりまとめ(たたき台)」決定・公表						「後期実施計画」策定											
入試・議会・定例会						パブリックコメント(パブコメ)実施						冊子配布											
						必要に応じてパブコメを踏まえた修正等						周知のため「地区別説明会」開催											

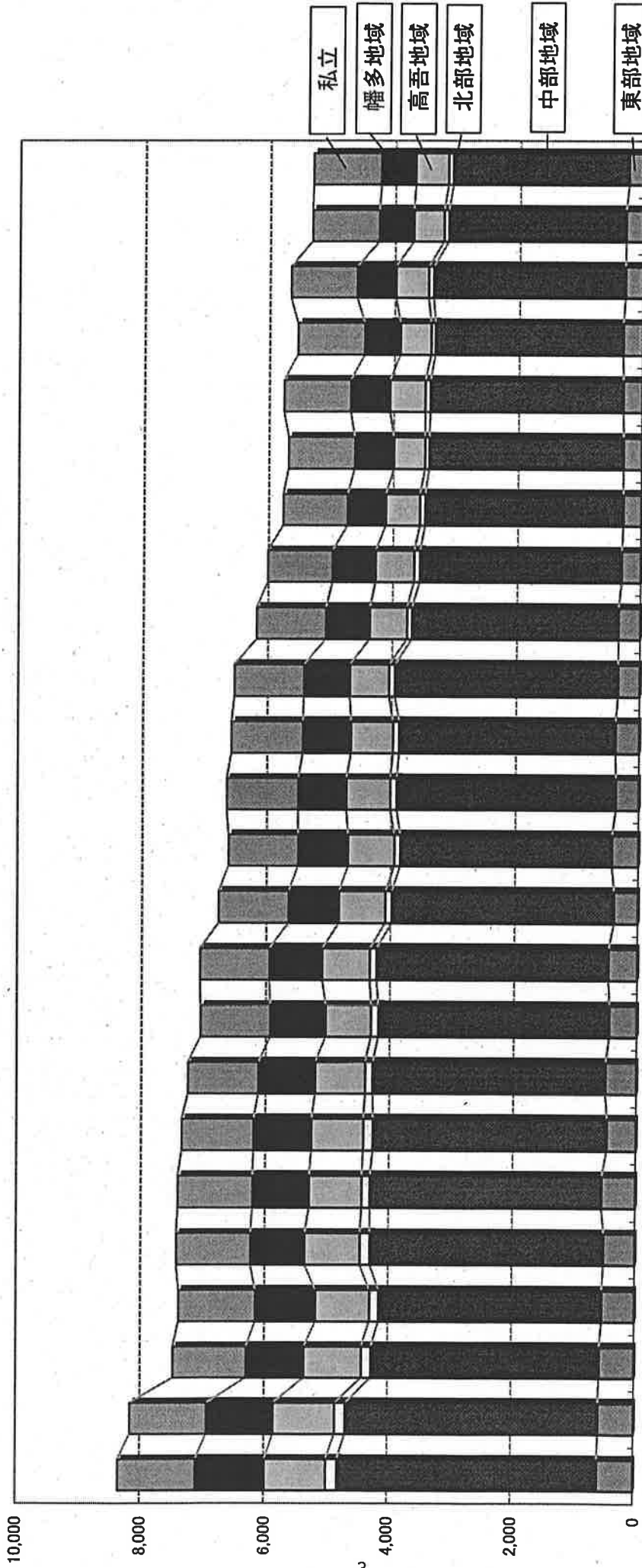
津波浸水域の県立高等学校一覧

資料2

	市町村名	学校名	10mメッシュ 最大クラス(L2)の津波 堤防なしの場合 (H24.12.26南海地震対策配布データ)		校舎 構造・階数	避難場所等				
			浸水深 (m)	30cm津波 到達時間(分)		避難場所	標高 (m)	広さ (㎡)	避難距離 (m)	避難時間 (分)
1	安芸市	安芸	5m	57分	非木造 4 階建	北舎屋上	23.5	840	—	—
2		安芸桜ヶ丘	5m	95分	非木造 4 階建	安芸市総合運動場(補助グラウンド)	20	13000	200	10
3	香南市	城山	4m	39分	非木造 4 階建	南舎屋上(地域住民は北舎屋上)	26	650	—	—
4	高知市	高知東	2m	190分	非木造 4 階建	校舎3・4階	9	1290	—	—
5		高知南	3m	36分	非木造 5 階建	校舎4階及び屋上	12.5	2320	—	—
6		高知工業	3m	47分	非木造 4 階建	校舎3・4階及び屋上	14	3110	—	—
7		高知追手前	2m	134分	非木造 4 階建	高知城・新館4階等状況に応じて ※右テータは高知城	44.4	2500	1000	15
8		高知丸の内	1m	191分	非木造 4 階建	北舎2・3・4階	6.5	945	—	—
9		高知小津	1m	243分	非木造 6 階建	校舎の4階以上の教室と6階の食堂(本館東)	15.1	1810	—	—
10	土佐市	高知海洋	8m	25分	非木造 5 階建	近くの高台	40	400	500	8
11	須崎市	須崎	7m	28分	非木造 4 階建	学校の裏山にある避難道を上って、山頂にある須崎市斎場	83	—	300	15
12	宿毛市	宿毛	7m	35分	非木造 4 階建	つつじ霊園	70	1000	1000	15
13	土佐清水市	清水	12m	11分	非木造 3 階建	学校裏山または近くの高台 ※右テータは高台	43	50	125	10

地域別中学校卒業生数の推移 H15.3~H38.3 ただし、H30.3以降は推計

■ 東部地域 ■ 中部地域 □ 北部地域 □ 高吾地域 ■ 幡多地域 ■ 私立



学	H.15.3	H.16.3	H.17.3	H.18.3	H.19.3	H.20.3	H.21.3	H.22.3	H.23.3	H.24.3	H.25.3	H.26.3	H.27.3	H.28.3	H.29.3	H.30.3	H.31.3	H.32.3	H.33.3	H.34.3	H.35.3	H.36.3	H.37.3	H.38.3	
東部地域	594	581	570	535	512	550	474	504	447	468	390	426	372	385	348	352	309	289	294	305	313	287	280	237	
中部地域	4,208	4,096	3,698	3,614	3,782	3,748	3,787	3,766	3,736	3,750	3,587	3,423	3,539	3,489	3,604	3,334	3,257	3,204	3,137	3,114	3,036	3,094	2,862	2,837	
北部地域	182	170	153	146	162	133	149	116	106	104	94	94	103	100	94	79	92	83	67	86	66	83	79	79	
高吾地域	1,007	1,003	931	867	889	848	836	805	726	760	741	740	701	670	623	595	619	541	497	563	489	517	481	523	
幡多地域	1,117	1,091	949	994	891	931	953	930	903	865	817	806	777	778	739	702	686	609	620	620	565	615	550	548	
私立	1,252	1,227	1,180	1,239	1,200	1,204	1,158	1,136	1,127	1,123	1,142	1,137	1,166	1,163	1,135	1,130	1,049	1,042	1,070	1,075	1,074	1,065	1,067	1,083	
合 計	8,360	8,168	7,481	7,395	7,436	7,414	7,357	7,257	7,057	7,072	6,781	6,826	6,658	6,585	6,543	6,192	6,012	5,768	5,685	5,763	5,543	5,661	5,319	5,307	
H25.3卒業生比				▲ 155	▲ 123	▲ 196	▲ 238	▲ 569	▲ 769	▲ 1,013	▲ 1,096	▲ 1,018	▲ 1,238	▲ 1,120	▲ 1,462	▲ 1,474									
前年度比				▲ 155	▲ 32	▲ 73	▲ 42	▲ 351	▲ 180	▲ 244	▲ 83	▲ 78	▲ 220	▲ 118	▲ 342	▲ 12									

平成27年度以降の入学数又は在籍者数の実態（学校別一覧）

資料4

白抜き：最低規模を下回っている ■：定員に対して40人以上下回っている □：定員の半分以下

学校名	学科(科)名	入学定員	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
室戸	総合	80	63	50	42	
安芸	普通	120 (60)	83	83	95	H28年度までは160人
安芸桜ヶ丘	工業(環建) [土木]	20	9	6	9	
	工業(環建) [建築]	20	6	4	11	
	工業(環工)	40	11	3	4	H30年度から募集停止
	商業(情ビ)	40	21	14	14	
城山	普通	80	61	40	46	
山田	普通	160	110	121	128	H29年度から単位制
	商業(商業)	40	29	26	30	
嶺北	普通	80	25	22	29	
高知農業	農業(農総)	40	40	41	40	
	農業(畜総)	40	32	28	36	
	農業(森総)	40	22	24	21	
	農業(環土)	40	27	31	35	
	農業(食ビ)	40	35	37	33	
	農業(生総)	40	40	32	40	
高知東工業	工業(機械)	40	31	40	35	
	工業(機械シ)	40	28	30	24	
	工業(電子)	40	26	24	27	
	工業(電機)	40	24	30	29	
岡豊	普通	240	240	240	239	
	普通(芸術コース)	40	23	25	24	
	普通(体育コース)	40	33	40	40	
高知東	総合	200	200	198	200	
	看護(看護)	30	24	24	30	
高知南	普通	200 (100)	169	194	200	
	国際(国際)	40 (20)	28	35	36	H35年度統合完了
高知工業	工業(機械)	40	40	40	40	
	工業(電気)	40	35	34	35	
	工業(情技)	40	37	34	38	
	工業(工化)	40	35	40	40	
	工業(土木)	40	40	40	40	
	工業(建築)	40	40	40	40	
	工業(総テ)	40	36	37	39	
高知追手前	普通	280	265	279	252	
吾北	普通	40	23	23	19	
高知丸の内	普通	140	141	141	140	
	音楽(音楽)	10	9	7	10	
	音楽(音楽)	30	20	21	13	
高知小津	普通	240	226	241	240	
	理数(理数)	40	24	29	40	
高知西	普通	240	236	240	240	
	外国語(英語)	40	40	41	40	H35年度統合完了
伊野商業	商業(キャリア)	160	145	139	147	
春野	総合	160	136	148	137	
高岡	普通	80	42	37	40	H29年度から単位制
高知海洋	水産(海洋)	80	51	58	39	
	船舶職員養成課程	[10]	[4]	[4]	[2]	
須崎工業	工業(機械系) [機械]	20	31	40	12	
	工業(機械系) [造船]	20	25	17	13	
	工業(電情系) [電気]	20	22	19	9	
	工業(電情系) [電情]	20			10	
	工業(シ工系) [機制]	20	18	15	2	
	工業(シ工系) [住環]	20			18	
須崎	普通	120	64	97	92	H31年度統合完了 ※H29年度から学科改編
佐川	普通	80	52	47	35	
窪川	普通	80	34	41	26	
榑原	普通	80	56	32	43	
四万十	普通	40	13	13	9	
	普通(自環コース)	40	7	7	4	
大方	普通	80	38	32	32	H29年度から全日制

(注1) 安芸、高知南、中村の()内の数字は、併設中学からの最大進学者の生徒数。
 (注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数
 (注3) 嶺北、榑原、四万十の合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

学校名	学科(科)名	入学定員	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
幡多農業	農業(園シ)	40	24	38	40	
	農業(アグリ)	40	27	28	30	
	農業(グリーン)	40	24	22	17	
	農業(コーディネート)	40	22	34	31	
中村	普通	200 (70)	184	161	200	
	西土佐	普通	40	22	11	9
宿毛工業	工業(機械) [機械]	20	17	14	17	
	工業(機械) [自転車]	20	20	18	18	
	工業(建設) [土木]	20	19	20	19	
	工業(建設) [建築]	20	20	20	17	
	工業(電気)	40	19	19	16	
	工業(情技)	40	27	40	33	
宿毛	総合	120	106	89	82	H28年度までは160人
清水	普通	80	51	47	47	
県立計		5090	4004	4032	4007	

(注4) 清水の合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
中芸	普通(昼)	40	23	26	11	
高知北	普通(昼)	80	80	74	80	
合計		120 [0]	103	100	91	

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
中芸	普通(夜)	40 [4]	8	17	18	
高知北	普通(夜)	40 [4]	134	124	101	
	看護(夜) (衛看) (技能連携)	40			4	H30年度から募集停止
合計		120 [8]	142	141	123	

(注1) 成人の[]は内数

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
室戸	普通	40 [4]	11	11	17	
山田	普通	40 [4]	38	32	29	
高知東工業	工業(機械)	40 [4]	33	40	34	
高知工業	工業(機械)	40 [20]				
	工業(電気)	40 [20]	87	81	70	
	工業(土木)	40 [20]				
	工業(建築)	40 [20]				
高岡	普通	40 [8]	27	42	44	
須崎	普通	40 [4]	25	23	17	H31年度に統合
佐川	普通	40 [8]	25	21	22	
大方	普通	40 [4]	28	26	21	
宿毛	普通	40 [4]	38	32	25	
清水	普通	40 [4]	19	21	19	
県立計		520 [124]	331	329	298	

(注1) 成人の[]は内数

学校名	学科(科)名	最低規模(該当に●)			備考
		H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
高知北		427	412	438	
大方		78	78	64	
合計		505	490	502	

1 前期実施計画からの継続検討事項

- 中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の3校の将来的な在り方を検討する必要がある。
 - ・安芸高校：南海トラフ地震への対応のため、適地への移転を検討する。
- 中村高校西土佐分校：2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合は、その翌年からの募集停止を検討する。
- 宿毛高校：南海トラフ地震による津波への対応のため、適地への移転の可能性を含め、将来の学校の在り方を検討していく。
- 清水高校：南海トラフ地震による津波への対応のため、高台への移転を検討する。

2 「県立高等学校再編振興計画」で定めた適正規模に関する検討事項

(1) 本校

〔記載内容〕 過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校。不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟な対応をするための支援体制を整えた学校については、特例として1学年1学級(20人)以上を最低規模として維持する。

〔現状課題〕 **中芸高校**：本年度下回る (H29年度：11人、H28年度：26人、H27年度：23人)
四万十高校：本年度下回る (H29年度：13人、H28年度：20人、H27年度：20人)

(2) 分校

〔記載内容〕 2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討する。※「入学者が20人に満たない状況が3年間で2度ある」から基準を緩和

〔現状課題〕 **吾北分校**：本年度下回る (平成29年度入学生19人 (H28:23人、H27:23人))
西土佐分校：2年連続下回る (平成29年度入学生9人、平成28年度入学生11人)

(3) 併設型中高一貫教育校

〔記載内容〕 東部、中央部、西部の3地域での配置を維持する。

〔現状課題〕 **県立安芸中学校**の志願者が減少し、生徒確保が課題となっている。
 ※平成29年度：定員60人、志願者36人、入学者35人

(4) 総合学科の学校

〔記載内容〕 生徒数の減少等により複数の系列を置くことが困難な学校については、生徒数や地域の状況も踏まえつつ必要に応じて普通科への改編も検討する。

〔現状課題〕 **室戸高校**の入学者が減少し、現在の4系列の維持が難しくなっている。
 ※平成29年度：定員80人、入学者42人
 ※現在の系列：文理総合系列、IT・アート系列、生活福祉系列、機械技術系列

(5) 定時制(夜間部)

〔記載内容〕 最低規模については、様々な学びを保障するため、「1学年1学級10人程度以上」から「学校全体の生徒数を20人以上」に緩和し学校の維持に努める。

〔現状課題〕 **室戸高校**：3年連続下回る (H29年度：17人、H28年度：11人、H27年度：11人)
中芸高校：3年連続下回る (H29年度：18人、H28年度：17人、H27年度：8人)
須崎高校：本年度下回る (H29年度：17人)
清水高校：2年下回る (H29年度：19人、H28年度：21人、H27年度：19)

前期実施計画で明記した学校の在り方に係る現在の状況（H29.10末現在）

	学校名	前期実施計画で明記した学校の在り方	平成29年10月末現在の状況
1	嶺北高校	<ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育を推進するとともに、地域との連携を更に発展させ地域活性化に向けた取組を推進することで教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭等の学校行事は中高連携して取り組み、部活動は吹奏楽部が中学校と合同で活動している。 ・連携型中高一貫教育を実施している嶺北中学校卒業者の嶺北高校への進学者数の割合は、平成27年度58.8%、平成28年度36.0%、平成29年度48.1%である。 ・自主防犯組織や地域活性化を目指した商品開発など、5つの自主活動があり、地域と連携して高校生が自主的に取り組んでいる。 ・学校支援地域事業との連携や、カヌーによる活性化に取り組んでいる。 ・文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、大規模校との合同授業の実施等、遠隔地の高等学校との授業交流に取り組んでいる。 ・入学者数（定員80人）は、平成27年度26人、平成28年度22人、平成29年度29人である。
2	高知追手前高校 吾北分校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携や生徒一人一人に応じたきめ細かい支援体制を強化する取組や地域の特性を生かした取組を通じて、教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・平成27年度を起算年として、2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動（清流太鼓部）によって、地域の伝統芸能の発展・継承に向けた取組を行っている。 ・国公立大学への進学者（H26年度1人、H27年度3人、H28年度0人）を出すなど、進路指導においても、個に応じた個別支援を丁寧に実践している。 ・文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、平成27年度から本校との「遠隔教育」を試行・研究し、授業や生徒交流、進学指導などで活用している。平成29年度からは、2科目において、遠隔授業による単位認定を実施している。 ・入学者数（定員40人）は、平成27年度23人、平成28年度23人、平成29年度19人である。
3	城山高校	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度より、全日制学年制から、より柔軟な対応ができる全日制単位制に改編し、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援等を通じて教育活動の充実を図るとともに、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 ・不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を行うことを目的に、基礎学力の定着を図る教育課程の実現や進級等に関して柔軟な対応ができるよう平成29年度から全日制単位制に改編し、2学期制の導入や学び直しの学校設定科目として「ベーシック数学」や「ベーシック英語」を導入している。 ・生徒一人一人の支援シートを作成し、生徒支援委員会を毎月開催するなど、生徒理解・支援に努めている。 ・今年度は、国公立大学を目指している生徒もおり、4年制大学進学への意識も高まっている。また、就職については、1回目の試験で第一志望の就職先に内定をもらう生徒が大半である。 ・入学者数（定員80人）は、H27年度61人、H28年度40人、H29年度46人である。
4	山田高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域性を生かし、高知工科大学や企業、地域と連携した取組等を通じて、国公立大学等への進学に向けた学力向上に取り組み、教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・商業科では地域と連携した取組により、地域産業の担い手を育成するとともに、資格取得等の商業科としてのメリットを生かした進学面の充実を図る。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知工科大学とは、H26年度から月1回の連携会議を開催し、高大連携を強化するとともに、高知工科大学生による学習支援や部活動支援、進路相談、防災活動、理科クラブ活動等、様々な面で大学生との交流・支援を進めており、関わっている大学生は60人を超えている。 ・「香美学園都市構想」を具現化するために、香美市教育委員会、高知工科大学、山田高校の3者で月1回の香美教育コラボ会議を開催し、香美市こども会議等、協働した取組を展開している。 ・文部科学省の「学校地域協働本部事業」を受託し、「地方創生に有意な人材の育成」を目的に、「総合的な学習の時間」において地域課題探究学習に取り組んでいる。 ・学び直し時間を設定し、基礎学力の定着に努めている。 ・進学指導としては、東京大学金曜特別講座の受講やスタディ・サプリの活用等を実施し、国公立大学への現役進学者がH26年度12人、H27年度12人、H28年度16人と増加している。 ・就職については、5年連続で就職内定率100%である。 ・入学者数（定員200人）は、H27年度139人、H28年度147人、H29年度158人と増加傾向にある。 ・商業科では、「商品開発」やプレゼン力、資格取得を推進しており、H26年度からの3年間で、第8回全国商い甲子園最優秀賞及び高知工科大学長賞（2回受賞）、高知県地場産業大賞次世代賞（2回受賞）等を受賞している。特に、H27年度に地元企業と協働開発した「高校3年生の山田まん」は、高い評価を得て販売良好である。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定通併修等により3年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 ・進路講演会や進学・就職補習などを実施。就職については、就職希望者の内定率は、8年連続100%である。 ・在籍生徒数は、H27年度38人、H28年度32人、H29年度29人である。

	学校名	前期実施計画で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況
5	高知農業高校	<ul style="list-style-type: none"> 本県の農業教育を担う中心的な学校として、農業のもつ教育力を最大限に活用し、動植物の飼育栽培を通して、命の尊厳や豊かな心、感謝の心を育み、倫理観や規範意識などを重視した人材の育成を行うなどの教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の取組を推進し、この3年間で入学者数は49人増（H26年度156人⇒H29年度205人）、在籍生徒数は93人増（H26年度498人⇒H29年度591人）となる。 「地域連携・地域貢献」、「幼保から大学までの交流・連携」 「専門力の還元（プランター草花管理や高校生レストランなど）」 専門機関やフィールドを活用した現場体験実習の充実 「学校開放（高農ふれあい市、アンテナショップ）」の開催 「専門力の向上（茶摘み、みそ加工、白菜販売、シャモ鍋提供）」を促す取組 進路については、<u>進学6～7割、就職3～4割</u>であり、国公立大学への進学者は、H26年度6人、H27年度3人、H28年度0人である。 「<u>学校で学んだことを生かせる進路選択</u>」をスローガンに取り組んでおり、平成28年度卒業生の進学・就職先では、<u>約65%の生徒がそうした進路に決定している</u>。
6	高知東工業高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と社会性の育成を図り、将来の就職につなげる。また、きめ細かい指導ができるように教育課程を編成し、工業系大学等への進学にも対応できるように教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 地域の企業や高知工科大学等の高等教育機関と連携した取組や先端技術への対応により専門的な知識・技能を身に付けた、ものづくりに強い人材を育成する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着に向けて、学習支援員の活用や専門教科でのフォローアップ、加力補習等を実施している。 ものづくりを通して、社会性の育成を図っている。 平成26年度から「理工学科」を募集停止としたが、それまで理工学科で培った大学進学に関するノウハウを現在の4科に活かし、大学受験にも対応する選択科目の設置や習熟度別学習、少人数による徹底した学力向上対策などを行い、<u>大学進学希望者に対する充実した支援体制を整えている</u>。（国公立大学進学者は、H26年度1人、H27年度4人、H28年度2人） 入学者数（定員160人）は、H27年度109人、H28年度124人、H29年度115人である。 企業の技術者による講演や技術指導をとおして、資格取得や技術の習得に努めると同時に、<u>5日間のデュアルシステムや企業見学</u>を通して、企業連携も推進している。 企業との共同研究を行い、全国鉄道模型コンテストに出展している。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（<u>三修制</u>）を導入している。 ものづくりを通じてキャリア教育を推進している。 在籍生徒数は、H27年度33人、H28年度40人、H29年度34人である。
7	岡豊高校	<ul style="list-style-type: none"> 様々な進路希望に対応できる多様なコースを教育課程に置き、きめ細かい学習指導を徹底し、生徒に確かな学力を定着させ、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援するなど、教育活動の充実を図る。 学習活動に加えて、部活動では練習環境の充実を図り、生徒の心身の鍛錬に励み、全国大会で活躍できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>5つの系列と2つのコース</u>により、生徒の実態や進路希望に即した学びを提供している。 文部科学省の「<u>遠隔教育</u>」の指定を受け、大規模校のメリットを生かした遠隔地の高等学校への授業配信に取り組んでいる。 文部科学省の「<u>外国語教育強化地域拠点事業</u>」の指定を受け、小中高の円滑な接続の在り方について、研究に取り組んでいる。 国公立大学への進学者は、H26年度21人、H27年度23人、H28年度17人である。 進路の内訳は、大学進学4割強、専修・各種学校進学4割強、就職1割である。 平成29年度から「<u>中部地域の運動部活動強化拠点校</u>」として指定を受けている。なお、<u>運動部、文化部ともに複数の部が毎年、全国大会に出場し、活躍している</u>。 部活動も含め学校教育全体で礼節を重んじる教育を実践している。
8	高知東高校	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科は、基礎学力の定着を進めるとともに、その特徴である系列による多様な進路希望に対応できるカリキュラムを生かした進路指導により、教育活動の充実を図る。また、看護科との連携により、医療分野への進学を支援する。 看護科は、専攻科との5年間の一貫教育の充実を図り、質の高い専門教科の実践と少人数制によるきめ細かい指導により、将来、看護師として活躍できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科では、<u>5系列（人文社会、自然科学、国際コミュニケーション、情報メディア、生活教養）</u>を設け、多様な科目を選択できるカリキュラムとしている。 部活動では、特にレスリング部が毎年、全国大会で入賞するなど活躍している。 進路については、過去3年間の平均では、<u>8割が進学、2割が就職</u>している。なお、年々、進学の割合が高くなってきており、平成28年度は、9割が進学となっており、<u>国公立大学へも5人が進学した</u>。 看護科は、<u>国家試験の合格率100%</u>を維持している。
9	高知南高校 高知南中学校	<ul style="list-style-type: none"> これまで取り組んできたキャリア教育と国際理解教育の更なる充実を図り、将来の進路を実現できる確かな学力とともに、語学力や課題解決能力を身に付け、将来、グローバル人材として活躍できる人材を育成する。 生徒数の減少への対応、グローバル人材の育成、南海トラフ地震への備えのため高知西高校と統合し、新たな中高一貫教育校に移行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度から<u>グローバル教育（探究型学習・英語教育プログラム）</u>を推進している。なお、平成30年2月に成果発表会の開催を予定しており、県内他校への普及につながる取組を展開している。 学校独自の学力向上プランを作成し、学力向上と英語運用能力の育成、進路保障に向けて計画的に取り組んでいる。 高知南中学校・高等学校としては、平成32年度が最後の入学生となり、平成35年4月に統合完了となる。 平成30年4月高知国際中学校開校。平成33年4月から高知南中学校の卒業生については、基本的に高知国際高校の普通科に入学する。

	学校名	前期実施計画で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況
10	高知工業高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業科の拠点校として、体験的・課題解決的な学習を通して地域や我が国の工業技術の発展やものづくりに貢献する人材を育成する。 工業教育の牽引役として、就職と国公立大学や難関大学への進学希望にも応えられる指導体制の充実等を通じて教育活動の充実に努める。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度から自ら学び、行動する生徒の育成を目指して、1・2 年次には高知工科大学と連携した探究型学習などを行い、その中でも 2 年次には科を超えたグループ活動を行っている。3 年次には「課題研究」において、科を超えたグループ研究にも取り組んでいる。 社会でも十分評価されるインテリア設計士、測量士、施工監理技術者や技能各種検定等、資格取得のための指導体制を整えている。 進学と就職は、ほぼ 5 : 5 の割合である。進学については、半数が大学、そのうち国公立大学へは毎年 20 人を超えて進学している。就職については、これまでは県外・県内の内訳は、ほぼ半々であったが、本年度卒業予定者については、県内内定が大幅（H28 年度 40.6%⇒H29 年度 60.2%）に増加している。 公務員へも毎年 10 数人程度合格している。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により 3 年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 専修コース（建築科）もあり、就労している生徒は約 7 割である。 中卒者、高卒者、大卒者、社会人と多様な生徒が学び、各自の希望に応じた指導を着実にやっている。 在籍生徒数は、H27 年度 87 人、H28 年度 81 人、H29 年度 70 人である。
11	高知追手前高校	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い教養と、探究する力や高い活用力を身に付け、将来、我が国の科学技術の発展を支える人材や、グローバル化した社会で国際的に活躍できる人材、地域を支え貢献できる人材を育成する。 進学拠点校としての取組を充実するとともに、その成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「質実剛健・文武両道」を校訓として、80%以上の生徒が部活動に所属し、勉強と部活動との両立を目指して努力を重ねている。 「将来を見据え、次代をリードする人材の育成」をスクール・アイデンティティとし、その実現のための取組として「レオプロジェクト」を行ってきた。平成 27 年度からは時代の変化に応じた教育内容の充実のために従来の取組の見直しを図り、平成 30 年度に新体制の「レオプロジェクト」を始動させる。 平成 29 年度には、新たに「授業改善推進委員会」「大学入試対応委員会」を立ち上げ、新学習指導要領や高大接続改革を見据えた指導体制を整備している。 近年は、卒業生の約 50%が現役で国公立大学に合格（H26 年度 144 人、H27 年度 149 人、H28 年度 114 人）している。また、直近 3 か年で、東京大学 2 人（現役 2 人）、京都大学 7 人（現役 4 人）、大阪大学 12 人（現役 10 人）、旧 7 帝大合計では 34 人（現役 28 人）が合格している。 直近 3 か年で、医療系大学医学部に 6 人（現役 5 人）が合格している。 難関私立大学への直近 3 か年の現役での合格者は、慶應義塾大学 6 人、早稲田大学 5 人、同志社大学 9 人、立命館大学 33 人、関西大学 18 人、関西学院大学 15 人である。 本校で大学進学における教科指導や進路指導のノウハウを身に付けた教員が人事異動により他校で勤務することで、県全体の進学指導力の向上に寄与している。 文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、平成 27 年度から吾北分校と遠隔授業を実践している。このように遠隔教育を通じて、専門性が必要な科目や質の高い授業を他校に配信している。
12	高知丸の内高校	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒のニーズや大学等への進学のために必要な学力等を向上させるため、全日制単位制の特色を生かしたカリキュラムを通して教育活動の充実に努める。 音楽科における専門的な知識、技能を伸ばす取組等を通じて、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けた取組や意識改革を行い、センター試験受験者が倍増（H27 年度 58 人、H28 年度 100 人）し、国公立大学への進学者数も増加（H26 年度 7 人、H27 年度 21 人、H28 年度 17 人）している。 文部科学省の「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」の指定を受け、「思考力・判断力・表現力」を育成する学習指導の在り方や、少人数の教員グループ「ユニット」による相互参観の仕組みの構築、教科会や学力向上検討委員会による検証の在り方などについて、校内の PDCA サイクルの確立による授業改善と授業外学習の充実の実現を目指した研究に取り組んでいる。 生徒支援委員会を開催し、多様な生徒のニーズに応える支援策などを話し合い、チームで対応している。 音楽科では、教員によるコンサートや、高知市内の中学校との合同練習、公開レッスン等を実施している。 音楽科の入学者数（定員 30 人）は、H27 年度 20 人、H28 年度 21 人、H29 年度 13 人である。
13	高知小津高校	<ul style="list-style-type: none"> 理数教育の拠点校として、将来、理数系分野の研究者や技術者として活躍できる人材を育成する。また、スーパーサイエンスハイスクール事業の成果を活用した取組を推進し、本県の理科教育を牽引する。 進学拠点校としての取組を充実するとともに、その成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 理系の充実を教育目標に掲げ、理科・数学の学力伸長につながる教科指導を徹底し、大学進学者のうち 6 割が理系学科に進学している。 入学者についても理系を希望する生徒が増えており、普通科においても 2 年次からのコース選択では、理型（理系コース）が 3 クラスと全体の半数を占める割合で安定している。 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業は、平成 29 年度からも連続 4 期目の指定を受け、県内では 3 大学（高知大学、高知工科大学、高知県立大学）、県外では大阪大学等と積極的に連携・協働した取組を推進している。また、今年の 1 年生から、学年全体（普通科を含む）に拡げた課題研究の取組を、県内の施設、企業の協力を得て推進している。 SSH の活動内容については、年 1 回報告会を実施（中学生やその保護者、他校の教職員も参加）している。 進学実績としては、国公立大学に H26 年度 101 人、H27 年度 114 人、H28 年度 82 人が合格しており、私立大学を含めると全体の約 65%が大学に進学している。 進路指導や教科指導の成果の普及については、高等学校教科研究会の会議や公開授業への参加・発表等をおして、そのノウハウを広く共有している。

	学校名	前期実施計画で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況
14	高知北高校	<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多部制単位制と通信制を併置する学校としての特性を生かして、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を行う。また、生徒の特性に配慮した教科指導やカウンセリング機能の充実等を通じた教育活動の更なる充実に努める。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、生徒の学習ペースに応じた学習を支援するとともに、進路実現を支援する。 	<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（<u>三修制</u>）を導入している。 20人前後の少人数による授業を実施している。 午後の時間帯に<u>共通講座</u>（3課程共通の能力や進路に応じた12講座）や<u>特別講座</u>（生徒・一般の方を対象とした教養や人間性を育む6講座）を設けている。 SC、SSWの支援も含め、教職員が一丸となって支援しており、進路希望に応じた個別支援なども実施している。 高知大学生による<u>学生支援員制度</u>を実施しており、生徒とのマッチングを検討のうえ、週に数回、生徒への学習支援や進路に関する相談等を担ってもらっている。 2学期制を導入しており、前期末には保護者面談、後期末には三者面談を実施し、<u>保護者と共に生徒を支援していく対応</u>を実施している。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（<u>三修制</u>）を導入している。 県体などでも活躍し、生徒が学校を居場所として実感できる支援を推進している。 1年次の数学では、卒業生の高知大学院生によるサポート指導を実施し、基礎学力の定着を図っている。 若者サポートステーションや就職アドバイザーと連携した進路指導、外部講師による面接指導、職場体験等を実施し、進路保障に努めている。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリング時には、教育相談担当教諭も関わるなど、支援を充実している。 入学者数は、平成27年度82人、平成28年度98人、平成29年度126人である。 0単位で入学してくる生徒のうち約半数が中学校の新卒者、残り半数が公私立高校の中途退学者であり、近年は、中学校の進路指導の際の選択肢の一つとして、通信制が認識されてきている。
15	高知西高校	<ul style="list-style-type: none"> グローバル教育を推進するとともに、進学拠点校としての取組を充実し、その成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 生徒数の減少への対応、グローバル人材の育成、南海トラフ地震への備えのため高知南中学校・高校と統合し、新たな中高一貫教育校に移行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定に基づき、平成27年度からグローバル教育を推進しており、その取組を始めた1期生が本年度3年次となり、プログラムの完成年度である。 文部科学省の「<u>外国語教育強化地域拠点事業</u>」の指定を受け、小中高の円滑な接続の在り方について、研究に取り組んでいる。 高知西高校としては、平成32年度が最後の入学生となり、平成35年4月に統合完了となる。 平成30年4月高知国際中学校開校、平成33年4月高知国際高校開校 MYP（ミドル・イヤーズ・プログラム：中学校段階のプログラム）については、試行期間を経て、平成32年度の認定を目指している。また、DP（ディプロマ・プログラム：高校段階のプログラム）については、平成33年度の認定を目指している。 国際バカロレア教育の導入に向け、教員養成や教育内容の開発に取り組んでいる。
16	春野高校	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を進めるとともに、総合学科の特徴である、系列による多様な進路希望に対応できるカリキュラムを生かした進路指導により、教育活動の充実を図る。 これまで培ってきた農業教育を教育活動全般に生かしながら、地域と関わりの深い園芸、家庭科を活用した取組を行い、近隣小中学校との連携を含め地域との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特性を生かし、<u>4系列（人文、食農、園芸、生活クリエイト）</u>を設けており、多様な進路希望に対応している。 1年次生は、<u>国語・数学・英語において習熟度別による少人数授業</u>を実施し、確認テストによる検証も行いながら、基礎学力の定着に努めている。なお、国語・数学・英語については、進学対応も含め、希望者には個別支援も実施している。 2年次生全員が<u>3日間インターンシップ</u>を実施し、職業観の育成、社会人基礎力の向上に取り組んでいる。 3年次生は、<u>3年間継続した学習生活記録シート</u>の作成により、面談や引継ぎ資料、進路選択等に役立てている。 全学年年度当初に<u>保護者・生徒・正副担任による三者面談</u>を行い、個別の支援体制を強化している。 全学年キャリアノートの活用により、<u>スケジュール管理と家庭学習時間の定着</u>を推進している。 農業教育で培った取組を教育活動全般に生かしながら、<u>「産業社会と人間」（1年次）と「総合的な学習の時間（なすプロジェクト）」（2・3年次）</u>を通して、春野町を探究学習のフィールドとし、地域社会に貢献する人材の育成に努めている。

	学校名	前期実施計画で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況
17	伊野商業高校	<ul style="list-style-type: none"> 商業教育の拠点校として商業教育の充実を図るとともに、地域と連携した体験を通して働く意欲と能力を高める。 全日制単位制の特色を生かして、多様なニーズをもつ生徒への支援や資格取得の取組等を通じて教育活動の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携を推進し、日々の学びを活かして、地域と連携した行事や活動に積極的に取り組んでいる。 「いの町活性化」をテーマに「仁淀ブルーProject」と題した課題研究を実施している。これまでに、いの町の観光地や地場産品の PR 方法の提案等に取り組んでおり、2・3年次の最後には、いの庁舎で発表での発表会を開催し、毎年、100人ほどのいの町民が参加している。 高知城のガイドや志国幕末高知維新号のトロッコ列車にガイドとして乗車したり、高知港に到着する豪華客船の外国人観光客へのガイド等を行っている。 年間 100 社を超える企業と連携したキャリア教育を、毎年継続して実施しており、2年次には4日間のインターンシップを全員が実施している。 2年次からは、生徒自身の希望に応じて4コース8プランから自分の学びを選択できるカリキュラムを設けている。(ビジネスコース：オフィス・ビジネスマナー、ツーリズムコース：コミュニケーション・ホスピタリティ、ICTコース：スペシャリスト・情報ビジネス、デザインコース：CG・映像)
18	高岡高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度より、学年制から、より柔軟な対応ができる単位制に改編し、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援等を通じて教育活動の充実を図るとともに、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模として維持する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を行うことを目的に、基礎学力の定着を図る教育課程の実現や進級等に関して柔軟な対応ができるよう平成 29 年度から単位制に改編し、2学期制の導入や学び直しのための学校設定科目の充実を図っている。 平成 28 年度は、2人が国公立大学合格(H26年度1人、H27年度0人)。 平成 28 年度の就職者は、県内就職 100%である。 入学者数(定員 80人)は、平成 27 年度 42人、平成 28 年度 37人、平成 29 年度 40人である。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度(三修制)を導入している。H28年度卒業生9人中5人が3修制で卒業。 生徒たちの学びの様子は、現在 1,200号を超える学校通信「星空」で詳細に紹介される等、外部への情報発信にも力を入れている。 平成 28 年度の卒業生の就職者は、県内就職 100%である。 在籍生徒数は、H27年度 27人、H28年度 42人、H29年度 44人である。
19	高知海洋高校	<ul style="list-style-type: none"> 水産高校ならではの恵まれた施設や環境、土佐海援丸を有効に活用するとともに、地域の産業界と連携した体験型学習や地域産業の担い手育成のための資格取得の取組を充実させることで、豊かな人間性を育てる取組を推進するなど、教育活動の充実に努め、生徒数の確保に努める。 小中学校との連携を図り、児童生徒が水産分野に興味・関心をもつような取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品・航海・機関のコース別のインターンシップや土佐海援丸の航海実習などを通じて、「できることが実感できる授業づくり」を推進し、職業観や勤労観の育成に努めている。なお、実習科目以外の授業においても「できることが実感できる授業づくり」に努めている。 普通教科の学習面では、学習支援員による支援や放課後ノートの活用により、基礎学力の定着に努めている。また、進学面では、「進学同好会」を部活動として組織し、家庭学習を促す指導やプリント教材の提示、添削指導等を行っている。 食品コースでは、食文化の伝承や地域産業の担い手育成につながる実習を行っている。(H29年1月：キャリア教育の推進で文部科学大臣賞受賞) 専攻科は3級海技士の船舶職員養成施設、本科生も小型船舶操縦士の指定(国土交通省)を受けている。その他、食品検定をはじめ、資格取得を推進している。 入学者数(定員 80人)は、平成 27 年度 51人、平成 28 年度 58人、平成 29 年度 39人である。 土佐海援丸の活用については、本校の国際航海をはじめとした各学年の航海実習の他に、小学生や中学生、本校の PTA の1日体験航海、四万十高校の屋久島航海、そして、高知南中高・清水高校、今年度は高知追手前高校の生徒会の高知足摺航海などがある。また、本校の施設見学を実施し、生徒募集につなげている。 ツナガールの活躍・広報や地域の行事への参加、文化祭、魚河岸かいようでの販売実習、農業高校との産業教育フェアなどを通じて交流を推進している。(H29年2月：ツナガール 高知県地場産品次世代賞受賞)

再編振興計画での地域（現・旧市町村）別中学校卒業生数の推移（H30.3～H38.3は推計）

地域	高校	現市町村名	H.19.3	H.20.3	H.21.3	H.22.3	H.23.3	H.24.3	H.25.3	H.26.3	H.27.3	H.28.3	H.29.3	増減	H.30.3	H.31.3	H.32.3	H.33.3	H.34.3	H.35.3	H.36.3	H.37.3	H.38.3	
中部地域	城山	夜須町	37	32	23	30	37	35	37	23	21	18	25	▲5	21	20	17	21	18	24	14	22	13	
		香我美町	55	41	56	38	48	58	58	63	63	55	70	61	▲2	63	50	60	37	39	44	27	35	41
	山田	赤岡・吉川	27	25	31	40	32	28	27	17	17	20	40	▲40	19	22	15	14	8	11	19	19	24	7
		野市町	147	176	178	162	179	168	186	140	189	167	181	▲181	159	164	157	154	167	143	162	134	159	
	高知	計	266	274	288	270	296	289	308	243	282	275	308	▲308	282	256	249	226	232	222	222	215	220	
		土佐山田町	160	138	147	157	138	180	123	132	149	143	140	▲140	121	129	133	128	139	146	143	138	127	
	伊野	香北町	40	36	34	41	38	33	35	25	28	32	39	▲39	37	24	27	29	24	23	29	38	18	
		物部村	14	12	15	18	10	22	7	11	11	6	13	▲13	6	10	8	8	9	7	8	8	6	
	南国	計	214	186	196	216	186	235	165	168	188	181	192	▲192	164	163	168	165	172	176	180	184	151	
		春野町	120	101	116	118	115	98	115	117	96	120	120	▲120	105	103	106	102	85	91	72	78	73	
伊野	鏡村	18	14	14	11	6	12	15	7	8	6	11	▲11	6	9	5	6	8	15	11	6	8		
	土佐山村	13	9	7	10	7	8	2	10	7	13	5	▲5	18	20	14	29	29	32	53	58	60		
南国	計	2,201	2,195	2,235	2,166	2,217	2,125	2,085	2,007	2,089	2,040	2,093	▲2,093	1,978	1,951	1,907	1,838	1,871	1,775	1,818	1,671	1,663		
	伊野町	228	239	189	203	176	198	146	141	133	144	150	▲150	121	124	116	123	108	124	104	83	102		
南国	計	370	376	366	393	371	426	371	370	379	384	365	▲365	342	353	332	369	323	315	340	316	289		
	南国市	2,950	2,934	2,927	2,901	2,892	2,867	2,740	2,644	2,715	2,701	2,752	▲2,752	2,570	2,550	2,480	2,467	2,424	2,352	2,398	2,212	2,195		
香北	計	195	197	222	227	203	205	217	210	216	200	219	▲219	199	144	171	159	164	163	171	132	149		
	土佐市	157	157	154	152	159	154	157	158	138	132	133	▲133	139	134	136	120	122	123	123	119	122		
中部地域計	計	3,782	3,748	3,787	3,766	3,736	3,750	3,587	3,423	3,539	3,489	3,604	▲3,604	3,334	3,257	3,204	3,137	3,114	3,036	3,094	2,862	2,837		
	H29との増減	178	144	183	162	132	146	▲17	▲181	▲65	▲115	0	▲0	▲270	▲347	▲400	▲467	▲490	▲568	▲510	▲742	▲767		
北部地域	本山町	36	26	33	22	30	23	25	20	17	25	27	▲27	14	21	20	18	26	11	15	15	18		
	土佐町	39	36	40	34	31	31	34	28	32	32	26	▲26	30	27	24	23	26	29	36	29	29		
香北	大川村	6	6	2	6	1	4	5	5	7	5	▲5	▲2	3	6	4	6	4	5	2	4	4		
	本川村	6	6	13	5	11	7	5	11	8	7	9	▲9	6	7	9	3	4	7	7	7	4		
香北	大豊町	42	33	33	28	29	29	24	17	24	14	14	▲14	14	12	14	14	7	15	10	14	16		
	計	129	107	121	95	102	91	92	81	86	85	81	▲81	67	73	71	57	75	62	74	73	71		
北部地域計	計	33	26	28	21	16	15	12	13	17	15	13	▲13	12	19	12	10	11	4	9	6	8		
	H29との増減	162	133	149	116	118	106	104	94	103	100	94	▲94	▲15	79	92	83	67	86	66	83	79		
全体	公立計	6,079	6,053	6,045	5,969	5,771	5,795	5,482	5,331	5,354	5,290	5,275	▲5,275	4,923	4,829	4,590	4,495	4,566	4,346	4,473	4,133	4,102		
	国公立計	6,236	6,210	6,199	6,121	5,930	5,949	5,639	5,489	5,492	5,422	5,408	▲5,408	5,062	4,963	4,726	4,615	4,688	4,469	4,596	4,252	4,224		
県内計	私立計	1,200	1,204	1,158	1,136	1,127	1,123	1,142	1,137	1,166	1,163	1,135	▲1,135	1,130	1,049	1,042	1,070	1,075	1,074	1,065	1,067	1,083		
	計	7,436	7,414	7,357	7,257	7,057	7,072	6,781	6,626	6,658	6,585	6,543	▲6,543	6,192	6,012	5,768	5,685	5,763	5,543	5,661	5,319	5,307		

地域からの意見聴取

ア 本山町・土佐町

イ いの町

ウ 土佐市

会場からの意見聴取